

第14回流山市子ども・子育て会議 会議録

日時

平成27年3月26日（木）午前10時～12時

場所

流山市役所 第1庁舎 3階 庁議室

出席委員

柏女会長、田中副会長、水落委員、古宿委員、岡本委員、櫻庭委員、
小川委員、竹内委員、鈴木委員、仲宗根委員、相馬委員、藪本委員、吉川委員

欠席委員

なし

事務局

子ども家庭部 宮島部長、石井課長
子ども家庭課子ども政策室 熊井室長、中山主事、橋爪主事

傍聴者

0人

報告

子どもをみんなで育む計画について

議題

小規模保育事業の認可及び利用定員について

資料

配布資料一覧

資料1 第14回流山市子ども・子育て会議次第

資料2 家庭的保育事業等（小規模保育事業）の認可について

資料3 利用定員の設定について

議事録

(事務局)

ただいまから第14回流山市子ども・子育て会議を開催させていただきます。

本日の会議のお配りしました資料の会議次第に基づきまして進めさせていただきます。資料の確認をしますが、もし不足がありましたら、おっしゃってください。

本日の会議では、今年4月開設の小規模保育事業所の認可及び利用定員についてご意見をお伺いしたいと思います。それでは、これから会議に移りますので、よろしくお願ひしたいと思います。柏女会長、よろしくお願ひいたします。

(柏女会長)

今日は、子どもをみんなで育む計画のご報告と、議題としては小規模保育事業所の認可及び利用定員の設定についてのご意見をお伺いする内容となっておりますので、ご意見等をお願いします。

それでは、まず事務局から、子どもをみんなで育む計画について、ご報告をお願ひしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

(事務局)

《パブリックコメントの結果報告》

(柏女会長)

ありがとうございました。何かご意見はありますか。

(水落委員)

このパブリックコメントの結果はホームページに公表されるのですか。

(事務局)

パブリックコメントの結果は、すでに公表されています。

(会長)

他にはありますか。

4人12件の意見をいただいたのは、関心を持っていただけた方が多く、今後の市政運営に影響する、貴重なご意見をいただいたと思います。

それでは、続いて、小規模保育事業の認可及び利用定員の設定について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

《小規模保育事業の認可及び利用定員の設定についての説明》

(柏女会長)

ありがとうございました。小規模保育事業のA型に認可申請が出ているとのこと。新聞でも、小規模保育事業所についての記事がありましたが、とても有効である反面、質の面等の課題があるとのことでした。

ご質問はありますか。

(櫻庭委員)

この小規模保育事業所の開園時間と、認可保育所は千葉県の助言・指導の場が設けられているのですが、そういった保育の質を確保するための助言や指導する場は設けられるのですか。

(事務局)

開所時間は、7時～20時までです。土曜日に関しても同様です。指導監査につきまして、児童福祉法上に市町村の監査権限がありますので、具体的な監査方法は未定ですが、今年中には実施したいと思っています。その上で、事業者には、保育士の適切な配置等の指導をしていきたいと思っています。

(柏女会長)

関連してですが、開園時間や運営の質の確保について、運営基準があると思いますが、そういった確認は進めているのですか。

(事務局)

現在、同時進行で進めています。

(柏女会長)

今回は認可の申請によるものですが、確認に関しては、現在調整中ということですか。

(事務局)

そうです。まず、認可申請が先になりますので、確認に関しては、現在調整をしています。

(柏女会長)

わかりました。認可に関して、子ども・子育て会議で意見を聴取して、運営面等に関しては、市の方でしっかりチェックをしていただける形とうことですね。

(事務局)

はい。運営面につきましては、今回、流山市で初めて小規模保育事業所の認可申請になります。新しい制度ということ踏まえまして、かなり細かい内容の監査を行っていきたいと考えています。まず、安全安心を第一、認可保育所に準ずるような規程、厳しさが必要になると思います。本日認可のご意見をいただければ、しかるべきに、監査の結果についても、この子育て会議で報告していきたいと考えています。

(櫻庭委員)

保育の質の向上のためには、職員の質の向上も合わせて必要だと思いますが、こういった点について、認可保育所ですと研修会等があるのですが、小規模保育施設ではどのように考えていますか。

(事務局)

小規模保育事業所は、まず、連携施設の設定が必要になりまして、国の考えでは連携保育所の交流を持ちながら、その中で保育の質の向上を図っていく必要があるとの見解が出されています。今後、連携先と協議をしながら、そのような体制が構築できるように努めていきたいと思います。認可保育所の研修会等に参加するかについては、相談させていただきたいと思っています。

(柏女会長)

小規模保育所の認可といっても、1か所だけですと、研修等は難しいと思います。例えば、東京都内では、認可保育所の研修をする際には、認可外保育所や認証保育園も参加しているようです。子どもや保護者との繋がりは変わらないと思いますので、ぜひ、ご検討いただきたいと思います。

(吉川委員)

会社概要をみますと、認可外保育所を運営との記載がありますが、今までのこの状態で、同じ場所で行っているのですか。

(事務局)

同じ場所で認可外保育施設を運営しています。ただ、小規模保育事業所は利

用定員がありますので、人数等の内容は違ってきます。

(吉川委員)

そうしますと、小規模A型に入るために調整をしたということですか。

(柏女会長)

人数が減ったということですか。

(事務局)

平成27年4月1日で、3歳以上になる子どもに関しては、認可保育所の入所申請をしていただき、全員、認可保育所に入れていきます。子どもや保護者に負担がいかないように配慮をしています。参考までに、認可外保育所はあと2か所あります。この2か所も可能な限り、小規模保育事業所に移行していただくように、行政としてもバックアップをしながら、要請していきたいと思えます。

(柏女会長)

現在、流山市には認可外保育所が3か所あって、まず、1か所が小規模保育事業所に移行することになり、残りの2か所も、市で指導しながら移行に向けて動いていくということですね。わかりました。

(田中副会長)

2か所とはどこにあるのですか。

(事務局)

南流山と、今年度から、おおたかの森駅前にできた認可外保育所があります。おおたかの森駅はまずは継続していければ、小規模保育事業所への移行も考えていきたいとの意向を聞いています。南流山は移行するためには、施設の改修が必要になるため、その課題をクリアしていかなければなりません。今後も、事業者と協議していきたいと思えます。

(柏女会長)

保育料も、小規模保育事業所の認可を受けると、だいぶ安くなりますので、保護者にとっても良いことだと思います。

(岡本委員)

小規模保育事業所や認可保育事業所の設置場所等の基準はあるのですか。

(事務局)

流山市の認可保育所の中で一番規模が少ないのが45名ですが、それ以上のものは基本的には戸建で作ってきています。現在、土地の関係がありまして、借家型、マンションの一室を活用する形態も出てきています。一方、小規模保育事業所は、ほとんどが借家型になっています。県の認可保育所等の契約も、10年間を担保することとなっていますが、10年先はどうなっているのか、分からない状況です。通常、認可保育所の隣に保育所を建てることはありませんが、小規模保育事業所は連携施設のすぐ近くに設置することはできます。この辺りは、行政が間に入って調整をしていきたいと思っています。

(柏女会長)

流山は大丈夫だと思いますが、他地区では認可保育所の供給過剰になる場合があるので、定員について、子ども・子育て会議の意見を聴くことになっています。

職員の配置状況ですが、全員が保育士ですか。

(事務局)

はい、そうです。

(柏女会長)

調理室がありますが、自園調理になりますか。

(事務局)

自園調理です。

(柏女会長)

設備基準や保育経験としては、今まで、認可外保育所で十分運営してきたので、問題ないということですね。認可基準については、おおむね満たしていると考えられるということですね。

(事務局)

はい。

(柏女会長)

他によろしいでしょうか。よろしければ、基準等はおおむね満たしているということで、認可は妥当ということにさせていただきたいと思います。ただ、運営に関しては、基準がしっかり守られているということを指導していただきたいと思います。

それでは、今日の議題は終わりになりますが、その他で、委員から何かありますか。

(櫻庭委員)

利用者から、一時保育の問い合わせが多くなっています。各園に問い合わせをしないとわからない状況のようで、保護者も大変ですし、園もその対応に追われる状況になりますので、できれば、ホームページ等の掲載を検討していただきたいと思います。

(事務局)

確認して、早めに対応していきたいと思います。

(柏女会長)

それでは、今後について、事務局からご説明をお願いしたいと思います。

(事務局)

今期の任期は、5月末までとなっています。今後、任期中に議題とする予定がないと思われますので、今日の会議で今期は終了とさせていただきたいと考えていますが、いかがでしょうか。

(柏女会長)

事務局としては、子ども・子育て会議としては継続となりますが、今期の任期の5月末までは特に予定がないと思われるので、今回は最後と考えているようですが、いかがですか。

(田中副会長)

次期の委員も公募になるのですか。

(事務局)

前回同様に、市民公募があります。

(柏女会長)

そうしますと、今日は最後ということですので、一言ずつご意見・ご感想を頂戴できればと思います。

(藪本委員)

2年前に応募した理由は、自分の子どもの環境が良くなればと思って応募しましたが、様々なことを議論する中で、子育て環境に対して、もっと良くしていきたいと思いました。次回も応募しようかと思っていますので、ぜひよろしくをお願いします。ありがとうございました。

(吉川委員)

私は小学生以上の子どもたちと接する機会が多い活動をしているのですが、昔と比べて、小学生が心にいろいろなものを抱えていることが多いと感じています。その前段階から何が起きているのかということを考えていたのですが、自分たちのころとは環境がだいぶ変わってきているのだと思い、子どもと保護者が健やかに育てる環境が整えられたら良いと思いました。2年間ありがとうございました。

(竹内委員)

私は民生委員児童委員の立場なので、学校との連携をしていることが多いのですが、小さいときから、幼稚園や学校に子どもをまかせている親が多いと感じています。やはり、基本的には家庭でのしつけが必要だと思っています。これからも地域の子子ども達を見守り続けて、健やかに育ってくれることを願っています。2年間、ありがとうございました。

(小川委員)

私は学童クラブの代表として、ここに参加させていただいていますが、学童クラブを運営していると、その前の幼児期の大切さが伝わってきます。現場にいても、子どもたちのストレスを溜まり方、その中で幼児期のありかた、思春期にさしかかる子どもたちのストレスはどこにあるのだろうと考えました。子ども・子育て会議の中心は、子どもを考えようとやってきましたが、親を守るということを重視してしまうことがあったのではないかと、自分の中では葛藤でした。これから社会を担っていく子どもたちの今の環境が苦しいものではないように、中学校で爆発すること達は9歳にある、9歳の子どもたちが変わってきているのは幼児期にあるというデータも出てきています。本当に、0歳から、中学生・高校生を含めて考えていくべきだと思っています。まだまだ、子どもの環境を作っていかなければならないと思っていますので、子どもが健や

かに育っていくことを願っています。ありがとうございました。

(櫻庭委員)

乳児時期、幼児時期の育ちが人として育っていく大事な時期ということ、自分たちの仕事の重さを改めて感じるとともに、このような会議の席で、子どもたちや保護者の声をきちんと反映していくことも大事な責務だと考えました。これからは実施していく側として言葉として一つ一つを忘れずに、子どもの立場と保護者の立場を忘れずに、間に立って両者の声をきちんと聞きながら、本当の意味での子育てしやすい、子どもも大人も生き生きできる流山になっていくように、たくさん保育園と協力し合っていきたいと思います。ありがとうございました。

(岡本委員)

私は、私立幼稚園の代表という立場で参加していますが、幼稚園があるということで、子どもを1人でも多く産もうと思ってくれることを目標としています。この子育て支援計画が流山にとって、そういうものになってくれることを願っています。流山にずっと住み続けて家族を育てていくという環境がもっと良く出来れば良いと思いますし、その一助に幼稚園がなれば良いと思っています。地域でいろいろなことが行われていますが、やはり、教育というのは、箱ではなく、中身だと思います。今の子どもたちの可能性があるので、地域から良いものを発信していければと思います。また、この会議委員をやらせていただいて、幼稚園だけでなく、いろいろな情報や保護者の声を聞いて、知らないこと、わからないことがまだまだたくさんあるのだと思いました。ありがとうございました。

(古宿委員)

私は、ファミリーサポートセンターの代表として参加させていただきました。ファミリーサポートは保護者の手助けをしたいという気持ちでやっています。いろいろな立場の意見を聞いて、何とかしたいという思いはありますが、なかなか難しいところもあって、どういう風にファミリーサポートを活性化させていったら良いのか悩んでいます。その中で、この会議に参加させていただき、いろいろな方のお話を聞くことができ、とても良かったです。ありがとうございました。

(水落委員)

黄色い手帳を発行してもらおうと、つばさ学園や放課後デイサービスに通うこ

とができるのですが、その数がすごく増えていると感じます。中には、家にいると大変だからという方もいて、それは、私は違うと思います。やはり、子どもが帰ってくるところは家庭であると思うので、子どもと接する仕事をされている方は、その辺りも考えていただければと思います。私事ですが、自分の子どもは保育園と行政の方々に育ててもらったという思いがあり、とても感謝しています。ありがとうございました。

(鈴木委員)

幼児教育相談や幼稚園の部分に携わっているのですが、電話相談でもいろいろな窓口があるので、自分で探して来る人が増えてきたという感覚があります。子どもを思う親がいて、いろいろなところにいるいろいろな人がいて、みんなで手を携えて、子育てを支援していくのだと思いました。ありがとうございました。

(相馬委員)

2年間、ありがとうございました。子育て当事者として参加させていただきましたが、参加するまでは、支援される側の目線しかなかったのですが、預かる側の視点を垣間見ることができて、流山は子どものために、いろいろな人が熱意をもって取り組んでいただいていると感じました。人が増えて、新しい課題が増えてくるとは思いますが、この方々が取り組んでいるなら問題ないと感じました。

(仲宗根委員)

2年間、子どもが話せるようになり、子どもの成長がとても早いと感じ、この計画も待ってくれないなと感じました。個人的には、仕事やまちづくりに携わるのが大好きで、いろいろ変えたいという思いで参加しましたが、この会議を出ていると、逆に自分の子育てが大丈夫かと思いました。変えると言いながら、本当に自分は、子どもたちとの時間は取れているか、保育園に預けていれば良いと思っていないかなど、この会議は、母親として戻れて、本当に大切なことはなんだろうと、大きい視点の会議だけれども、自分視点に戻れるきっかけになった会議でした。今後も、自分の力で変えるということをしながらも、自分の子どもたちにとっては、唯一の母親なので、しっかり時間をとって、愛情を注いでいきたいと思いました。2年間、ありがとうございました。

(藪本委員)

自分の子どもに、流山で育ててくれてありがたいと思ってもらえるような、市にしたいと思っています。父親であり、事業者ではありますが、私自身がこ

の街を誇れるようにしたいと思いつながりながらやっています。この先、どのように関わられるかはわかりませんが、子どもたちの視点から見ても、流山が住みやすいと思ってもらえるような街にしたいと思っています。せつかくのこの会のネットワークを活用しながら、考えていければと思います。

(田中副会長)

NPO法人の代表で参加させていただきましたが、活動を始めたときに、少しでも行政に意見を言えるような場があれば良いと思っていましたが、こういう場に参加することができて、ありがとうございます。流山市は、子どもが増えています、それはマーケティング課が子育て世代を誘致しているからだとは思いますが、一方で、以前は専業主婦になる方が多かったです。今は、働く母親が当たり前になっているので、家庭に残って、子育てをしている人がこのままで良いのかと不安になる方が心配だと感じています。いろいろな立場の人がいるとは思いますが、ネットワークを作って、少しでも流山の子育て環境が良くなれば良いと思っていますので、ご協力をお願いします。計画は出来ましたが、ここからスタートだと思いますので、今は量の確保に追われているとは思いますが、それだけではなく、子育てする環境を考えながら、市にも提言していければと思いますので、よろしくをお願いします。

(柏女会長)

この会議に関わらせていただいて、本当に良かったと思っています。この計画を策定する際に、熱心な事業者や行政と関わりながら作れたことを本当に感謝しています。この制度自体は、12年前に、国の研究会からの提言によって始まったものですが、12年経って待機児童問題が終わろうとするときに、この制度が動き出すことに感慨無量の気持ちでいます。ただ、始まったとしても、これから、いろいろな課題が出てくると思いますので、引き続きの子育て会議で、一つずつの課題、今は量を増やすことが命題になっていますが、きめ細かな課題についても埋めていくことが大事だと思っています。内閣府の方から、子ども・子育て会議の好事例集を作っていくという話もありましたが、流山市も立候補してもよいのではないかと考えています。皆様方と一緒に学べたことを感謝していますし、これからも流山の子育てにいろいろな形で関わっていければと思っています。ありがとうございました。

(宮島部長)

私は、担当部長として、流山の子育て会議は、全国で1番だと自負しています。そして、この計画が、単に、子ども・子育て支援計画というだけではなく、

子どもをみんなで育む計画とつけていただけたことを感謝しています。これから、この計画に命を入れていくこととなりますが、それは行政が作るのではなく、みんなで推進していくこととなります。そのことを表している標題になっていると思います。平成29年度の見直しの際には、この計画を作って良かった、そのときに、プラスもう少し付け加えるという議論ができるような実効性のあるものにしていきたいと思っています。本当に、2年間ありがとうございました。

(柏女会長)

それでは、今年度の子育て会議を終了したいと思います。ありがとうございました。